

## 環境配慮の取り組み事例

### コンバインにおける環境配慮

コンバインは、稲や麦等を収穫するための農業機械です。クボタグループでは、作物や地域の特性に合わせた多様なコンバインを開発し、お客様のニーズに応えています。

#### ■ コンバインDC-70Gの製品ライフサイクルにおける省資源化

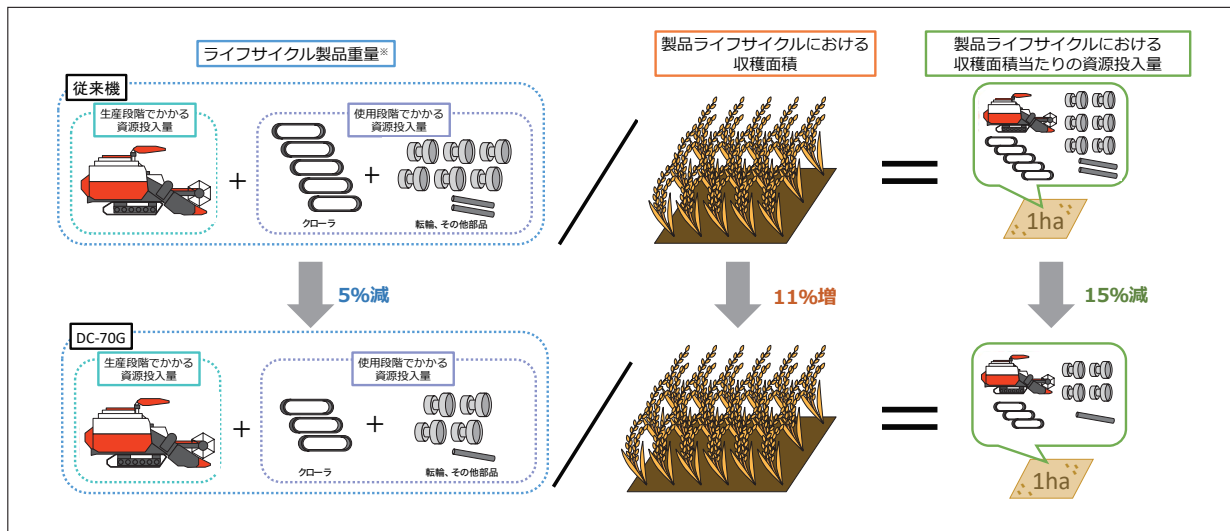
東南アジアおよびその他新興国向けコンバイン「DC-70G」は、主要な交換部品の耐久性向上により、使用段階における部品交換の頻度を少なくしました。また、収穫作業を効率化できるように改良を加え、作業時間当たりの収穫面積を拡大しました。

これらにより、コンバイン本体の生産からお客様での使用・廃棄に至るまでの製品ライフサイクルにおいて、従来機(DC-68G)と比較して、収穫面積1ha当たりが必要となる資源投入量を約15%削減し、省資源に貢献しています。



コンバインDC-70G

#### 製品ライフサイクルにおける収穫面積当たりの資源投入量の考え方および従来機との比較



※ ライフサイクル製品重量：製品の本機単体重量と、使用期間中に必要となる主要な交換製品を含めた総重量

#### ① 主要な交換部品の耐久性向上

クローラや転輪などの主要な交換部品の耐久性向上により、交換頻度低減を実現し、さらにライフサイクル製品重量を5%低減しました。また、部品購入コストと交換作業の手間を低減することができました。

#### 耐久性が向上した主要な交換部品

主要な交換部品	長寿命化（従来機比）	開発のポイント
クローラ	約 1.5 倍	転輪との接触圧力低減、厚肉化 など
転輪	約 1.3 倍	クローラとの接触圧力低減、厚肉化、熱処理の追加 など

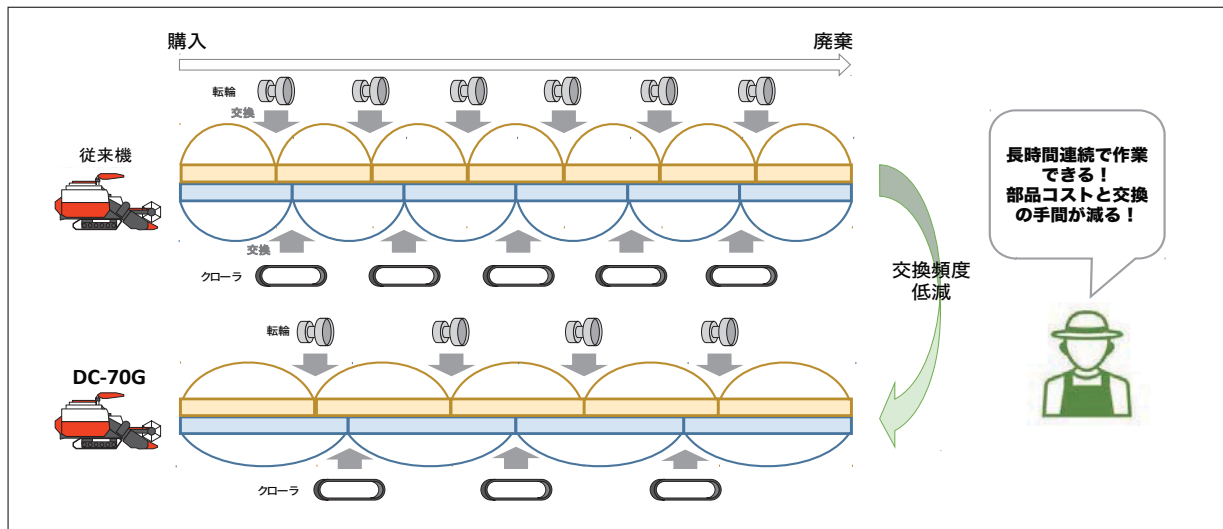


クローラ

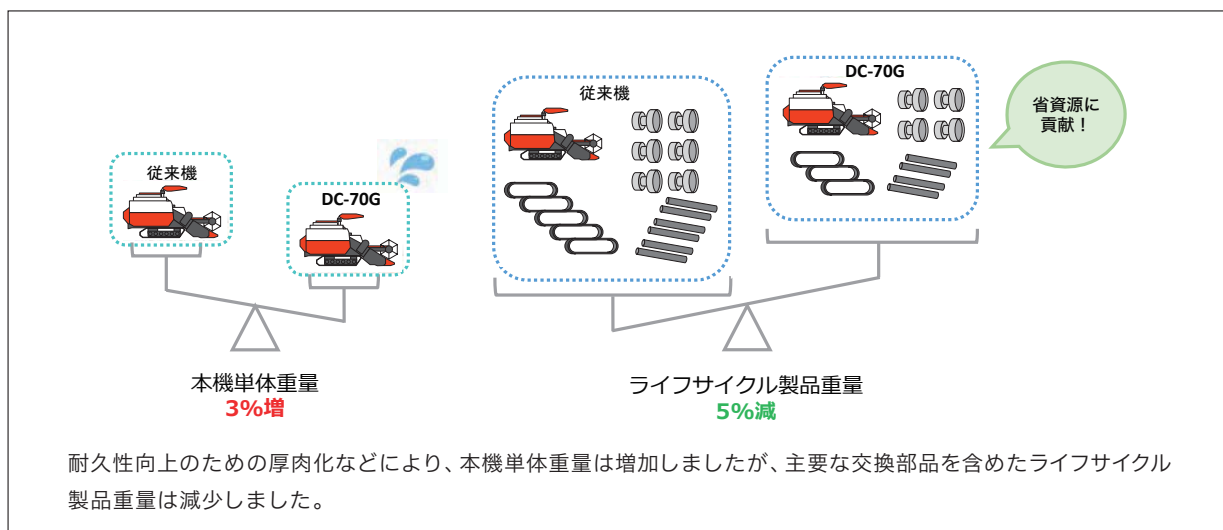


転輪

## 交換頻度低減のイメージ



## ライフサイクル製品重量低減のイメージ



## ② 収穫作業の効率化

刈り幅の拡張や大容量グレンタンク搭載などにより、収穫作業を効率化し、作業時間当たりの収穫面積を拡大しました。燃費は従来機同等に抑えています。

### 収穫作業を効率化する主要な改良箇所

主要な改良箇所	従来機比	収穫作業効率化への寄与
刈取部の刈り幅	3.8%拡張	2,075mmのワイドな刈り幅で、同一車速での収穫面積を3.8%拡大
グレンタンク (刈取った作物を貯蔵するタンク)	70%の大容量化	刈取った作物の排出作業 <sup>※</sup> の頻度が減り、長時間連続作業が可能

※ タンクが作物で満タンになった際、刈取作業を中断し、あぜ道などへ移動して作物を排出する作業

